

2012年(平成24年)10月24日(水曜日)

北九州

13 S

JR折尾駅の駅舎  
文化財価値調査せず

北九州市方針

建て替えが決まっているJR折尾駅の駅舎(北九州市八幡西区)について、北九州市は23日、文化財としての価値の調査をしない方針を示した。

同日の市議会建設消防委員会でも明らかにした。

市折尾総合整備事務所によると、駅は洋風の木造2階建てで1891年に開業し、1916年に改築された。日本初の立体交差駅としても知られる。新駅舎について、市は13日、外観をほぼ踏襲したデザイン案を公表し、化粧柱や円形ベン

チなどの部材をできる限り使うことにしている。

ただ、市はこれまで文化財としての価値を検証したことはなく、同委員会では、検証を求める陳情を提出した地元2団体が意見陳述し、「国の重要文化財になり得る」として専門家による調査を求めた。これに対し、市は「住民に使いやすい施設として、駅舎の保全、活用を図った」として、調査しない方針を示した。委員からの「文化的価値はない」という判断か」との問いには、「市教委の判断だ」と述べるにとどまった。

2団体の関連の陳情計3件はいずれも継続審査となった。